



君の言葉で やさしさにつつまれた八中に

校長 佐藤 政彦

37日間の夏休みがあつという間に終わりました。3年生にとっては、今まで経験したことがない程の〔充実した／辛い／悔いが残る／etc〕夏休みだったことでしょうか。1・2年生は、本物に触れることができたでしょうか。きっと、貴重な体験をして、ひとまわり成長したことと思います。さあ、今日から2学期です。夏休みに培った力を基に、大きく飛躍する2学期にしていきたいと思います。

さて、1学期は、『さわやかで気持ちのいい学校にしよう!』と、色々な場面で呼びかけてきました。2学期は次のステップとして、『さわやかで気持ちのいい言葉』を意識してみましょう。相手を元気にする言葉がけや、当たり前だけど気恥ずかしくて言葉に出せなかった感謝の言葉など、積極的に声に出し、みんなの手でさわやかで気持ちのいい学校を創っていきましょう。

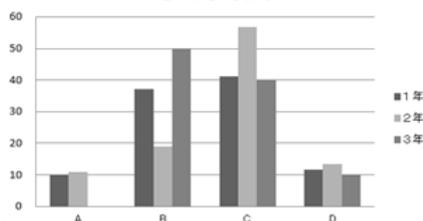
夏休みに、“調布市・社会を明るくする運動 中学校意見発表会”が開催され、生徒会長の成尾威風君が八中の代表として意見発表を行いました。発表の題名は『言葉は包丁』というもので、小学校時代に習っていた少林寺拳法の師匠にかけてもらった言葉が、今でも自分の励みになっており、言葉の持つ力はとても大きいという発表でした。更に、言葉は勇気を与えることもできるが、時として相手を傷付ける凶器にもなり得るとの話でした。なにげない一言が、相手を深く傷付けてしまうことがあり、言葉は、包丁のように使い方によってはとても怖いものであり、使い方を意識することが大切であると、まとめていました。

言葉は、ビタミン剤や解毒剤にもなりますが、人を苦しめる悪のウィルスにもなります。アンガーマネージメントとして、6秒数えて気持ちを落ち着かせる方法がありますが、言葉も同意に、思ったことをすぐに口に出してしまうのではなく、ひと呼吸置いて、相手の気持ちになって言葉がけをしてみるとよいでしょう。ポジティブな言葉は、自己肯定感を高め、更には、周りにいる人の心を明るくさわやかにしてくれます。

第1回 学校評価

学校評価にご協力いただき、ありがとうございました。詳しい内容は、後日、学校ホームページにアップいたします。

4 子供は家庭での学習の習慣が身についている



☆考察

- 良かった点・基本的な生活習慣や思いやりの心が育っている。
 - ・行事を積極的に頑張っている。
 - ・学校の様子が学年だより等でよく伝わってくる。
- 期待する点・基礎的な学力をつけさせてほしい。
 - ・あいさつがしっかりできてほしい。
 - ・家庭学習が充実できるような支援がほしい。

(左のグラフ)

★自由意見より

- アンケートの記名について→今後も記名とさせていただきます。記名により、ご意見をいただいた方に、直接回答をさせていただくことも可能となります。
- 部活動の活性化について→専門性のある顧問が少なくなっている中、既存の部を存続させるためにも、外部指導員等を活用し、より専門的で内容の濃い部活指導を目指していきます。
- プール指導について→気温と水温により判断していきます。次年度は、9月に実施することも検討していきます。

☆その他課題として ○アンケート提出率の向上→8割回収を目指す。